



平成30年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年5月14日

上場会社名 日本空調サービス株式会社 上場取引所 東名  
 コード番号 4658 URL <http://www.nikku.co.jp/>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 田中 洋二  
 問合せ先責任者（役職名） 経理部長（氏名） 横井 智明（TEL） 052-773-2511  
 定時株主総会開催予定日 平成30年6月22日 配当支払開始予定日 平成30年6月25日  
 有価証券報告書提出予定日 平成30年6月25日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成30年3月期の連結業績（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（1）連結経営成績

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期	45,467	5.4	2,481	3.6	2,579	3.9	1,561	4.2
29年3月期	43,143	1.3	2,394	3.1	2,482	4.4	1,497	63.0

（注）包括利益 30年3月期 1,891百万円（△11.1%） 29年3月期 2,128百万円（120.4%）

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
30年3月期	44.54	43.78	10.0	7.9	5.5
29年3月期	42.77	42.10	10.5	7.9	5.6

（参考）持分法投資損益 30年3月期 ー百万円 29年3月期 △13百万円

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期	33,019	16,349	48.7	458.40
29年3月期	31,944	15,300	47.1	429.21

（参考）自己資本 30年3月期 16,078百万円 29年3月期 15,044百万円

（3）連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
30年3月期	2,898	△715	△1,479	5,672
29年3月期	1,154	△303	△1,498	4,896

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
29年3月期	ー	10.00	ー	12.00	22.00	770	51.4	5.4
30年3月期	ー	11.00	ー	12.00	23.00	806	51.6	5.2
31年3月期(予想)	ー	11.50	ー	11.50	23.00		50.4	

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	48,000	5.6	2,500	0.8	2,600	0.8	1,600	2.5	45.62

（注）業績管理を年次で行っているため、第2四半期（累計）の業績予想は行っていません。

※ 注記事項

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社（社名）NACS BD Co., Ltd.
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
  - ② ①以外の会計方針の変更：無
  - ③ 会計上の見積りの変更：無
  - ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期	35,784,000株	29年3月期	35,784,000株
② 期末自己株式数	30年3月期	709,764株	29年3月期	733,364株
③ 期中平均株式数	30年3月期	35,053,769株	29年3月期	35,024,960株

(参考) 個別業績の概要

1. 平成30年3月期の個別業績（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(1) 個別経営成績 (%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期	30,613	5.8	1,608	8.1	2,017	23.1	1,381	1.9
29年3月期	28,944	3.7	1,487	1.6	1,639	△0.5	1,355	40.1

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期	39.40	38.73
29年3月期	38.70	38.10

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
30年3月期	24,679		13,455		53.8		378.38	
29年3月期	23,765		12,659		52.7		357.10	

(参考) 自己資本 30年3月期 13,271百万円 29年3月期 12,516百万円

2. 平成31年3月期の個別業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,000	7.8	1,650	2.6	2,060	2.1	1,400	1.4	39.92

(注) 業績管理を年次で行っているため、第2四半期（累計）の業績予想は行っておりません。

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

(決算説明会内容の入手方法)

当社は、平成30年6月6日にアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明会資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	2
(4) 今後の見通し	3
(5) 中期経営計画等の進捗状況	4
(6) 目標とする経営指標の達成状況	4
(7) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	4
(8) 事業等のリスク	4
(9) 継続企業の前提に関する重要事象等	5
2. 企業集団の状況	6
3. 経営方針	7
(1) 会社の経営の基本方針	7
(2) 目標とする経営指標	7
(3) 中長期的な会社の経営戦略、会社の対処すべき課題	7
(4) その他、会社の経営上重要な事項	8
4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	8
5. 連結財務諸表及び主な注記	9
(1) 連結貸借対照表	9
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	11
連結損益計算書	11
連結包括利益計算書	12
(3) 連結株主資本等変動計算書	13
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	15
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	16
(継続企業の前提に関する注記)	16
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	16
(表示方法の変更)	19
(連結貸借対照表関係)	19
(連結損益計算書関係)	20
(連結包括利益計算書関係)	22
(連結株主資本等変動計算書関係)	23
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	25
(セグメント情報等)	25
(1株当たり情報)	27
(重要な後発事象)	28
6. 個別財務諸表及び主な注記	29
(1) 貸借対照表	29
(2) 損益計算書	31
(3) 株主資本等変動計算書	33
(4) 個別財務諸表に関する注記事項	37
(継続企業の前提に関する注記)	37
(重要な後発事象)	37
7. その他	38
(1) 役員の異動	38
(2) その他	38

## 1. 経営成績等の概況

## (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、世界経済の緩やかな回復を背景とした輸出の持ち直しなどにより、回復基調を維持しておりますが、一方で、人手不足感に伴う人件費上昇などの影響が懸念され、先行きは不透明な状況となっております。ビルメンテナンス業界においては、引き続き施設の維持管理コストの見直し意識が強いものの、省エネや省コストに加え、病院での手術室の無菌化や院内感染の防止、製薬工場や再生医療研究所等でのバリデーションサポートといった高度な技術力に対し、関心が高い状況が続いております。

このような経営環境の中、当社グループにおいては、サービスを提供する現場でのお客様との接点を最重要視し、当社のノウハウを活かした、設備及び環境診断・評価、ソリューション提案、省エネや省コスト提案を通じてお客様の潜在的ニーズの掘り起こしに努め、新規物件の獲得や既存契約の維持に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は454億67百万円（前連結会計年度比5.4%増）、営業利益は24億81百万円（同3.6%増）、経常利益は25億79百万円（同3.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は15億61百万円（同4.2%増）となりました。

なお、当社グループは、建物設備のライフサイクルに合わせて、メンテナンスサービスとリニューアル工事を一体化した事業活動を展開しており、当該事業以外の事業について重要性が乏しいことから、報告セグメントを単一としております。

## (2) 当期の財政状態の概況

## (資産)

流動資産は194億48百万円となり、前連結会計年度末に比べて9億58百万円の増加となりました。これは主に、現金及び預金が8億9百万円、電子記録債権が3億19百万円それぞれ増加し、受取手形・完成工事未収入金等が2億32百万円減少したことなどによります。

固定資産は135億70百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億16百万円の増加となりました。これは主に、ソフトウェアが3億22百万円、投資有価証券が2億84百万円それぞれ増加し、ソフトウェア仮勘定が3億71百万円減少したことなどによります。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べて10億74百万円増加し、330億19百万円（前連結会計年度比3.4%増）となりました。

## (負債)

流動負債は119億14百万円となり、前連結会計年度末に比べて4億14百万円の増加となりました。これは主に、未払費用が2億87百万円、未払法人税等が1億93百万円それぞれ増加し、未払金が1億83百万円減少したことなどによります。

固定負債は47億55百万円となり、前連結会計年度末に比べて3億87百万円の減少となりました。これは主に、長期借入金5億6百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて26百万円増加し、166億70百万円（前連結会計年度比0.2%増）となりました。

## (純資産)

純資産は163億49百万円となり、前連結会計年度末に比べて10億48百万円の増加となりました。これは主に、利益剰余金が7億53百万円、その他有価証券評価差額金が1億78百万円それぞれ増加したことなどによります。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は56億72百万円となり、前連結会計年度末より7億76百万円の増加となりました。

当連結会計年度に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、28億98百万円の資金の増加（前連結会計年度は11億54百万円の資金の増加）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益24億93百万円により資金が増加したことなどによります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、7億15百万円の資金の減少(前連結会計年度は3億3百万円の資金の減少)となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出3億98百万円、有形固定資産の取得による支出2億76百万円により資金が減少したことなどによります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、14億79百万円の資金の減少(前連結会計年度は14億98百万円の資金の減少)となりました。これは主に、配当金の支払額8億6百万円、長期借入金の返済による支出6億46百万円により資金が減少したことなどによります。

## (参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成26年3月期	平成27年3月期	平成28年3月期	平成29年3月期	平成30年3月期
自己資本比率 (%)	42.6	44.2	43.4	47.1	48.7
時価ベースの 自己資本比率 (%)	44.8	49.1	68.0	73.5	79.6
キャッシュ・フロー対 有利子負債比率 (年)	0.9	0.8	2.1	2.5	0.8
インタレスト・ カバレッジ・レシオ (倍)	148.1	117.9	86.2	46.0	149.4

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

(注1) いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

(注2) 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数(自己株式控除後)により計算しております。

(注3) キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。

(注4) 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。

## (4) 今後の見通し

当社グループの中核事業である建物設備メンテナンス及びその補完的役割を担う建物設備工事におきましては、世界各国の政治、経済の先行き不安を受け、設備投資への不確実性が増しているものの、環境保全に関心が高まっている昨今、省エネや省コスト等につきまして、引き続き高い関心がもたれております。

このような経営環境の中、よりお客様との接点を重要視し、「設備及び環境診断・評価」「ソリューション提案」「省エネ・省コスト提案」に注力して、メンテナンス及びリニューアル工事の拡大を図ってまいります。また、医療施設、製薬工場及び再生医療研究所といった高度な技術力を必要とされるお客様への提案を積極的に行ってまいります。

従いまして、平成31年3月期の通期業績見通しは次のとおりとなります。

	連結		個別	
	金額	前期比	金額	前期比
売上高	48,000 百万円	5.6 %増	33,000 百万円	7.8 %増
営業利益	2,500 百万円	0.8 %増	1,650 百万円	2.6 %増
経常利益	2,600 百万円	0.8 %増	2,060 百万円	2.1 %増
親会社株主に帰属 する当期純利益 (注)	1,600 百万円	2.5 %増	1,400 百万円	1.4 %増

(注) 親会社株主に帰属する当期純利益について、個別業績に関しては「当期純利益」を記載しております。なお、上記の見通しは、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## (5) 中期経営計画等の進捗状況

当社グループは、2016年度を初年度とする中期3ヵ年経営計画を策定し目標としてまいりました。当社グループの当連結会計年度の実績と「2016中期3ヵ年経営計画」の2019年3月期連結(目標)を比較すると、売上高は454億67百万円(2016中期3ヵ年経営計画比達成率94.7%)、営業利益は24億81百万円(同99.2%)、経常利益は25億79百万円(同99.2%)、親会社株主に帰属する当期純利益は15億61百万円(同97.6%)となっており順調に推移しております。これは当社グループの高い技術力が必要とされる特殊施設、特殊空間へのシェアアップを図り、既存のお客様に満足していただくとともに、新たなお客様の獲得を進めたことが主な要因であります。引き続き「2016中期3ヵ年経営計画」の達成に向け注力してまいります。

平成30年3月期比較(2016中期3ヵ年経営計画比:2019年3月期連結目標)

	2019年3月期計画	2018年3月期実績	達成率
売上高	48,000百万円	45,467百万円	94.7%
営業利益	2,500百万円	2,481百万円	99.2%
経常利益	2,600百万円	2,579百万円	99.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,600百万円	1,561百万円	97.6%

## (6) 目標とする経営指標の達成状況

平成29年5月開示の業績予想において、平成30年3月期の1株当たり当期純利益(EPS)の目標を42円80銭としておりました。結果として、1株当たり当期純利益(EPS)については、44円54銭(達成率104.1%)となりました。

## (7) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

## ① 基本方針

当社は株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題の一つと認識しており、経営基盤の強化に向けた内部留保の充実を勧奨しつつ、利益配分を決定することとしております。

利益還元の基本方針につきましては、従来「連結配当性向30%を目途に安定した配当の継続」としておりましたが、2016年に策定いたしました「2016中期3ヵ年経営計画」におきまして、配当性向の水準を段階的に引き上げ、2018年3月期にはその目途を50%とすることといたしました。

また、内部留保資金につきましては、財務体質の強化並びに将来の事業展開に向けた投資等に有効活用していく考えであります。

## ② 当期の配当

上記方針に基づき、当事業年度の配当金につきましては、1株当たり11円の間配当を実施済みであり、期末配当は1株当たり普通配当12円とすることで、年間配当金としては、1株当たり23円(連結配当性向51.6%)とさせていただきます。

## ③ 次期の配当

次期配当につきましては、1株につき中間配当と期末配当をそれぞれ11円50銭とし、年間で23円(連結配当性向50.4%)とさせていただきます。

## (8) 事業等のリスク

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に及ぼす可能性のあるリスクは以下のようなものがあります。なお、本文中における将来に関する事項は、決算短信発表日(平成30年5月14日)現在において当社グループが判断したものであります。

## ① 経済状況

当社グループの中核事業である建物設備メンテナンス及びその補完的役割を担う建物設備工事におきましては、現在我が国の景気動向は若干好転しておりますが、引き続きメンテナンスコストの見直しや新規受注に向けた企業間競争の激化により、お客様からのメンテナンス料金引下げ要望がさらに加速される可能性があり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

② メンテナンス・工事施工にかかる事故や災害等のリスク

当社グループがお客様に提供している商品は、建物設備メンテナンス及び建物設備工事であり、そのサービスの提供や工事に携わる当社グループ社員の人為的なミスにより、お客様にご迷惑及び損失を与えてしまう恐れがあります。また、建物設備工事においては、竣工後一定期間、瑕疵担保責任に伴う補修工事等が発生する可能性があります。また、これらに関連して、訴訟等を提起される可能性があります。賠償責任保険の加入等によりリスク回避には努めておりますが、保険でまかないきれない損失の発生や信頼失墜によるブランド力低下等により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

③ 特有の法的規制・取引慣行・経営方針

当社グループが関連する建物設備メンテナンス及び建物設備工事における官公庁関連の案件につきましては「入札制度」に参加し、受注、契約を行っております。この入札制度の参加資格条件の変更等により、入札参加機会を失うこと、また、官公庁の官業の民間への開放策である指定管理者制度等の導入による受注先の変更に伴い逸注する可能性もあり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

④ 海外展開に伴うリスク

当社グループは中国、バングラデシュ、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、ミャンマーの7カ国に進出しており、今後もアジアを中心にさらなる海外展開を進めてまいります。これらの国の政治、経済の混乱や予期せぬ為替レートの変動等により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑤ アスベストに対する問題

昨今、社会問題化しているアスベストの曝露による肺がん、悪性中皮腫等を発症している労働者が増えつつある状況のなかで、当社グループにおいても、サービスを提供する現場において、アスベストの存在の確認を必ず行っておりますが、将来的に、同様の事象が発生する可能性が全くないとは考えられない状況であります。

(9) 継続企業の前提に関する重要事象等

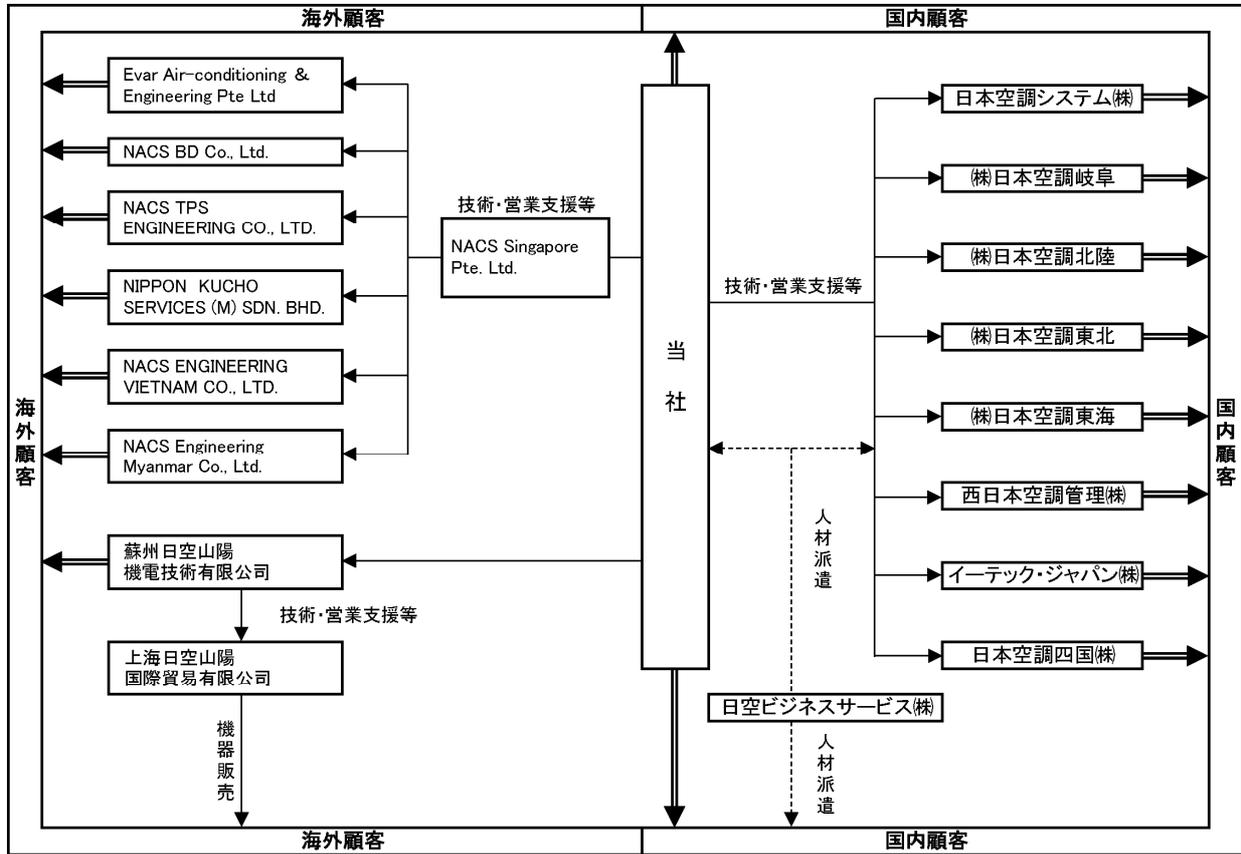
該当事項はありません。

2. 企業集団の状況

当社グループは、当社（日本空調サービス株式会社）、子会社18社（国内9社、海外9社）により構成され、空調を中心とした建物設備等のメンテナンス、維持管理及びリニューアル工事を主な事業としております。

なお、当社グループは、セグメント情報を記載していないため、セグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

事業の系統図は、次のとおりであります。



➡ 建物設備メンテナンス・建物設備工事

- (注) 1. 子会社18社はすべて連結子会社であります。  
 2. 平成30年4月1日付で、当社は西日本空調管理株式会社及び日本空調四国株式会社を吸収合併し、事業統合いたしました。

### 3. 経営方針

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「お客様に安心感を与える最適な環境を維持するために、技術力と人的資源を結集させ、高品質サービスを提供する」ことを経営の基本理念としております。

昭和39年(1964年)の会社設立以来、空調をはじめとした建物設備全般に対する総合的なサービスを提供できるビジネスモデルを構築しつつ、常にお客様の企業価値向上に貢献することを念頭において事業展開することで、信頼と実績を着実に積み重ねてまいりました。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、2016年2月に策定いたしました「2016中期3ヵ年経営計画」において、株主価値の増大及び企業価値の向上を目指す上で、「1株当たり当期純利益(EPS)」を重要な指標と捉え、下記を目標に取り組んでまいります。

2019年3月期「1株当たり当期純利益(EPS)」・・・45円

(注)平成28年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行ったことによる調整をしております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略、会社の対処すべき課題

建物設備のメンテナンスサービスを中核事業とする当社グループを取り巻く環境におきましては、政府の経済政策を背景に緩やかな回復基調で推移しておりますが、世界各国の政治、経済の不確実性等により、依然として先行き不透明な状況が続いており、民間企業、官庁ともに施設の維持管理コストの削減や見直し意識が高く、今後も厳しい経営環境が続くものと推測しております。

そのような経営環境におきましても、お客様の環境や省エネ・省コストへの関心は高い状況が継続しております。当社グループでは、お客様との接点を最重要視し、お客様の潜在的ニーズに対し営業力と技術力を結集した設備及び環境診断・評価、ソリューション提案、省エネ・省コスト提案を通じてメンテナンス及びリニューアル工事の受注拡大を図ってまいります。また、当社グループは、2016年度を初年度とする「2016中期3ヵ年経営計画」を策定しております。この計画は、当社グループが永続的な成長を実現するための経営戦略、数値目標を明確に示した将来展望と位置付けており、引き続き次の点を中期的な課題と捉え、注力してまいります。

- ① 当社グループは今後も高い技術が必要とされる特殊施設、特殊空間等に対して高品質サービスを提供してまいります。また、受託施設のうち、病院、研究施設及び製造工場等の割合を高めると共に、更なる技術力向上に向けて経営資源を集中させ、既存のお客様に満足していただくとともに、新たなお客様の獲得につなげてまいります。
- ② 当社グループは日本全国に拠点を展開しており、そのネットワークを最大限活用することで迅速かつ高いレベルでお客様のニーズに合わせたサービスを提供し続けてまいります。今後はそのサービス体制をいかし、全国各地で均一なレベルのサービスを要望される全国展開企業様にも対応してまいります。また、各エリアでの連携を強化し、コストの効率化を進めるとともに、環境創生企業として、人と環境の調和を常に考え、最適な環境を創造することで社会に貢献してまいります。
- ③ 当社グループは中国進出を足がかりにアジア全域を経済圏と捉え、海外展開を積極的に推進してまいります。また、海外グループ会社の収益の向上を図ってまいります。
- ④ 当社グループのガバナンスをより強化することにより、企業価値を高め、株主の皆様への利益還元と従業員の待遇の更なる充実を目指してまいります。

このような取り組みを着実に推進し、業界におけるポジションを一層高め、「建物設備メンテナンス業界のリーダー」として、当社グループ独自のビジネスモデルの構築を目指しております。

当社グループが永続的な成長を実現するためには、中核事業である建物設備メンテナンス部門を安定的に拡大し、より強固な経営基盤を構築していくことが必要と考えております。今後も成長が期待できる医療関連業界等を含め特殊施設の更なるシェアアップを目指してまいります。そのうえで、お客様から“日本空調に仕事を任せて本当に良かった、これからも頼むよ”とご評価を得て、契約の更新、拡大を図るとともに、毎年着実に新規のお客様を獲得できるよう、お客様の事業価値の向上に貢献する高い技術力とサービス力を「日本空調ブランド」と位置付け、提供するサービスの質の絶え間ない向上を掲げ、競争力を高めてまいります。

また、リスク管理委員会、コンプライアンス委員会等により、内部統制を含む社内管理体制の強化に取り組み、更なるコンプライアンスの充実を図ってまいります。

2016年2月12日開示の「2016中期3ヵ年経営計画」の数値目標は次のとおりとなります。

		2019年3月期連結 (目標)
売上高	(百万円)	48,000
営業利益	(百万円)	2,500
経常利益	(百万円)	2,600
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	1,600
1株当たり当期純利益	(円)	45.76

(注) 平成28年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行ったことによる調整をしております。

- (4) その他、会社の経営上重要な事項  
該当事項はありません。

#### 4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、I F R S (国際財務報告基準) の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

## 5. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,404	6,214
受取手形・完成工事未収入金等	11,435	※1 11,203
電子記録債権	445	※1 764
未成工事支出金	※2 382	※2 481
原材料及び貯蔵品	13	15
繰延税金資産	408	455
その他	401	314
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	18,490	19,448
固定資産		
有形固定資産		
建物	※3 6,036	※3 6,085
減価償却累計額	△2,960	△3,031
建物(純額)	3,075	3,053
機械及び装置	1,829	1,829
減価償却累計額	△185	△293
機械及び装置(純額)	1,644	1,536
土地	※3 3,927	※3 3,969
建設仮勘定	0	-
その他	1,131	1,184
減価償却累計額	△860	△913
その他(純額)	271	271
有形固定資産合計	8,918	8,830
無形固定資産		
のれん	194	180
ソフトウェア	61	383
ソフトウェア仮勘定	371	-
その他	23	23
無形固定資産合計	651	587
投資その他の資産		
投資有価証券	3,320	3,605
繰延税金資産	320	351
その他	※4 249	201
貸倒引当金	△6	△5
投資その他の資産合計	3,883	4,152
固定資産合計	13,453	13,570
資産合計	31,944	33,019

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	5,191	5,177
電子記録債務	2,363	2,422
短期借入金	※3 63	※3 79
1年内返済予定の長期借入金	※3 643	※3 552
未払金	499	316
未払費用	1,580	1,867
未払法人税等	470	664
未成工事受入金	31	63
役員賞与引当金	39	42
受注損失引当金	※2 43	※2 22
その他	576	705
流動負債合計	11,500	11,914
固定負債		
長期借入金	※3 2,166	※3 1,660
繰延税金負債	189	245
役員退職慰労引当金	258	284
執行役員退職慰労引当金	16	23
退職給付に係る負債	2,414	2,448
資産除去債務	46	46
その他	52	47
固定負債合計	5,143	4,755
負債合計	16,643	16,670
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,139	1,139
資本剰余金	1,168	1,128
利益剰余金	11,502	12,255
自己株式	△91	△88
株主資本合計	13,719	14,435
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,641	1,819
為替換算調整勘定	△3	38
退職給付に係る調整累計額	△313	△215
その他の包括利益累計額合計	1,324	1,643
新株予約権	142	184
非支配株主持分	113	86
純資産合計	15,300	16,349
負債純資産合計	31,944	33,019

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	43,143	45,467
売上原価	※1 35,337	※1 37,243
売上総利益	7,806	8,224
販売費及び一般管理費		
役員報酬	464	549
株式報酬費用	40	45
給料手当及び賞与	3,025	3,203
役員賞与引当金繰入額	39	42
退職給付費用	118	127
役員退職慰労引当金繰入額	42	37
執行役員退職慰労引当金繰入額	5	6
のれん償却額	21	22
その他	1,652	1,706
販売費及び一般管理費合計	※2 5,411	※2 5,743
営業利益	2,394	2,481
営業外収益		
受取利息	6	4
受取配当金	53	58
保険配当金	26	15
受取保険金	11	7
受取地代家賃	1	0
その他	31	32
営業外収益合計	131	119
営業外費用		
支払利息	25	19
持分法による投資損失	13	-
資金調達費用	4	0
その他	1	1
営業外費用合計	44	21
経常利益	2,482	2,579
特別利益		
固定資産売却益	※3 2	※3 5
投資有価証券売却益	1	3
その他	-	0
特別利益合計	3	9
特別損失		
固定資産売却損	※4 15	※4 0
固定資産除却損	※5 3	※5 4
減損損失	※6 112	※6 90
その他	0	0
特別損失合計	131	95
税金等調整前当期純利益	2,354	2,493
法人税、住民税及び事業税	893	1,072
法人税等調整額	△60	△146
法人税等合計	833	926
当期純利益	1,521	1,567
非支配株主に帰属する当期純利益	23	6
親会社株主に帰属する当期純利益	1,497	1,561

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益	1,521	1,567
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	563	178
為替換算調整勘定	△49	47
退職給付に係る調整額	94	98
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	-
その他の包括利益合計	※1 607	※1 323
包括利益	2,128	1,891
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,113	1,879
非支配株主に係る包括利益	15	11

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位: 百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,139	1,192	10,619	△99	12,851
当期変動額					
剰余金の配当			△612		△612
連結子会社出資金の取得による持分の増減		△25			△25
親会社株主に帰属する当期純利益			1,497		1,497
自己株式の処分		1		8	10
その他			△2		△2
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	△23	882	8	867
当期末残高	1,139	1,168	11,502	△91	13,719

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	1,078	38	△408	708	112	116	13,789
当期変動額							
剰余金の配当							△612
連結子会社出資金の取得による持分の増減							△25
親会社株主に帰属する当期純利益							1,497
自己株式の処分							10
その他							△2
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	563	△42	94	615	29	△2	643
当期変動額合計	563	△42	94	615	29	△2	1,510
当期末残高	1,641	△3	△313	1,324	142	113	15,300

当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位: 百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,139	1,168	11,502	△91	13,719
当期変動額					
剰余金の配当			△806		△806
連結子会社出資金の取得による持分の増減		△41			△41
親会社株主に帰属する当期純利益			1,561		1,561
自己株式の処分		0		2	3
その他			△1		△1
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	-	△40	753	2	715
当期末残高	1,139	1,128	12,255	△88	14,435

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	1,641	△3	△313	1,324	142	113	15,300
当期変動額							
剰余金の配当							△806
連結子会社出資金の取得による持分の増減							△41
親会社株主に帰属する当期純利益							1,561
自己株式の処分							3
その他							△1
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	178	42	98	318	41	△27	333
当期変動額合計	178	42	98	318	41	△27	1,048
当期末残高	1,819	38	△215	1,643	184	86	16,349

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,354	2,493
減価償却費	404	465
減損損失	112	90
のれん償却額	21	22
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	0	△1
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1	3
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	219	174
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	21	44
受取利息及び受取配当金	△60	△63
支払利息	25	19
持分法による投資損益 (△は益)	13	-
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1	△3
株式報酬費用	40	45
売上債権の増減額 (△は増加)	△814	△81
たな卸資産の増減額 (△は増加)	129	△100
仕入債務の増減額 (△は減少)	△45	39
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	125	91
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△437	506
その他	54	2
小計	2,160	3,751
利息及び配当金の受取額	52	54
利息の支払額	△25	△19
法人税等の支払額	△1,032	△888
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,154	2,898
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△254	△276
有形固定資産の売却による収入	70	14
無形固定資産の取得による支出	△13	△398
投資有価証券の取得による支出	△26	△27
投資有価証券の売却による収入	2	6
関係会社出資金の払込による支出	△14	-
貸付けによる支出	△40	△6
貸付金の回収による収入	7	10
その他の支出	△270	△284
その他の収入	235	246
投資活動によるキャッシュ・フロー	△303	△715
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	-	16
長期借入れによる収入	-	50
長期借入金の返済による支出	△837	△646
連結の範囲の変更を伴わない 子会社出資金の取得による支出	△42	△87
配当金の支払額	△612	△806
その他	△5	△6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,498	△1,479
現金及び現金同等物に係る換算差額	△12	23
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△658	726
現金及び現金同等物の期首残高	5,555	4,896
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	49
現金及び現金同等物の期末残高	※1 4,896	※1 5,672

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 18社

連結子会社の名称

日本空調システム株式会社

株式会社日本空調岐阜

株式会社日本空調北陸

株式会社日本空調東北

株式会社日本空調東海

西日本空調管理株式会社

日空ビジネスサービス株式会社

イーテック・ジャパン株式会社

日本空調四国株式会社

蘇州日空山陽機電技術有限公司

上海日空山陽国際貿易有限公司

NACS BD Co., Ltd.

Evar Air-conditioning & Engineering Pte Ltd

NACS Singapore Pte. Ltd.

NACS TPS ENGINEERING CO., LTD.

NIPPON KUCHO SERVICES (M) SDN. BHD.

NACS ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.

NACS Engineering Myanmar Co., Ltd.

上記のうち、NACS BD Co., Ltd. は、重要性が増したため、持分法適用非連結子会社から連結子会社(特定子会社)に変更しております。また、NACS TPS ENGINEERING CO., LTD. は、支配力基準により実質的に支配していると認められたことから、持分法適用関連会社から連結子会社に変更しております。

さらに、NACS ENGINEERING VIETNAM CO., LTD. 及びNACS Engineering Myanmar Co., Ltd. については、当連結会計年度において新たに出資したため、連結の範囲に含めております。また、当社の完全子会社であった東日本空調管理株式会社は、当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社の数

該当事項はありません。

なお、NACS BD Co., Ltd. は、重要性が増したことから、連結子会社に変更したため、持分法適用の範囲から除外しております。

(2) 持分法適用の関連会社の数

該当事項はありません。

なお、NACS TPS ENGINEERING CO., LTD. は、支配力基準により実質的に支配していると認められたことから、連結子会社に変更したため、持分法適用の範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、蘇州日空山陽機電技術有限公司、上海日空山陽国際貿易有限公司、Evar Air-conditioning & Engineering Pte Ltd、NACS Singapore Pte. Ltd.、NACS TPS ENGINEERING CO., LTD.、NIPPON KUCHO SERVICES (M) SDN. BHD. 及びNACS ENGINEERING VIETNAM CO., LTD. の決算日は12月31日であり、連結財務諸表の作成にあたっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。また、NACS BD Co., Ltd. の決算日は6月30日であり、連結財務諸表の作成にあたっては、12月31日現在で仮決算を行った財務諸表を基礎としております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。なお、その他の連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

## 4 会計方針に関する事項

## (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

## ① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

## ② たな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

## a 未成工事支出金

個別法を採用しております。

## b 原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法を採用しております。

## (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

## ① 有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社は定率法、在外連結子会社は定額法を採用しております。

ただし、当社及び国内連結子会社は、平成10年4月1日以降取得の建物(建物附属設備、構築物を除く)並びに平成28年4月1日以降取得の建物附属設備及び構築物、また、一部の機械及び装置については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3年～50年

機械及び装置 17年

## ② 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づいております。

## ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

## ④ 長期前払費用

均等償却を採用しております。

## (3) 重要な引当金の計上基準

## ① 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

## ② 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支出に備えるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

## ③ 受注損失引当金

受注案件の損失に備えるため、受注済案件のうち当連結会計年度末において、損失の発生する可能性が高いと見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることが可能なものについては、翌連結会計年度以降に発生が見込まれる損失額を引当計上しております。

## ④ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額の全額を計上しております。

## ⑤ 執行役員退職慰労引当金

執行役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額の全額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(15年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(15年)による定額法により、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

③ 未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理方法

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

④ 連結子会社における簡便法の採用

国内連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、親会社の原則法に基づき計算した退職給付債務の額と自己都合要支給額との比(比較指数)を求め期末時点の自己都合要支給額に当該比較指数を乗じて算出した金額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの工事契約の進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産、負債、収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、10年間の定額法により償却を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他の支出」に含めていた「無形固定資産の取得による支出」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他の支出」に表示していた△283百万円は、「無形固定資産の取得による支出」△13百万円、「その他の支出」△270百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

## ※1 連結会計年度末日満期手形等

連結会計年度末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形等が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形	-	25百万円
電子記録債権	-	1百万円

※2 損失が見込まれる工事契約に係るたな卸資産と受注損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係るたな卸資産のうち、受注損失引当金に対応する額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未成工事支出金	9百万円	9百万円

## ※3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物	601百万円	571百万円
土地	772百万円	812百万円
計	1,373百万円	1,383百万円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	8百万円	12百万円
1年内返済予定の長期借入金	213百万円	173百万円
長期借入金	450百万円	277百万円
計	672百万円	462百万円

※4 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
その他の投資その他の資産 (出資金)	9百万円	-

5 貸出コミットメント契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引金融機関4行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
貸出コミットメントの総額	3,000百万円	3,000百万円
借入実行残高	-	-
差引額	3,000百万円	3,000百万円

(連結損益計算書関係)

※1 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	32百万円	5百万円

※2 販売費及び一般管理費に含まれている研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	12百万円	10百万円

※3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	1百万円	1百万円
土地	0百万円	3百万円
その他の有形固定資産 (車両運搬具)	0百万円	0百万円
計	2百万円	5百万円

※4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	6百万円	0百万円
土地	8百万円	0百万円
その他の有形固定資産 (車両運搬具)	0百万円	0百万円
その他の有形固定資産 (工具、器具及び備品)	-	0百万円
計	15百万円	0百万円

※5 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物	3百万円	2百万円
その他の有形固定資産 (車両運搬具)	0百万円	1百万円
その他の有形固定資産 (工具、器具及び備品)	0百万円	0百万円
計	3百万円	4百万円

※6 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

用途	場所	種類	金額
事業用資産	埼玉営業所 (埼玉県さいたま市)	土地及び建物	99百万円
事業用資産	日本空調四国株式会社 本社他 (香川県高松市他)	建物等	8百万円
保養所施設	蛭ヶ野保養所 (岐阜県高山市)	建物	3百万円
合計			112百万円

(経緯)

当該事業用資産及び保養所施設について帳簿価額を回収可能価額まで減損いたしました。

(グルーピングの方法)

事業用資産及び保養所施設については、拠点単位を基本として資産のグルーピングを行っております。

(回収可能価額の算定方法等)

正味売却価額により測定しております。

正味売却価額は、不動産鑑定士による不動産鑑定評価額(売却予定の資産については売却予定価額)等を基に算定した金額により算定しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

用途	場所	種類	金額
処分予定資産	旧埼玉営業所 (埼玉県さいたま市)	建物等	90百万円

(経緯)

当該処分予定資産について除却処分の決定を行ったため、帳簿価額を備忘価額まで減額し、当該減少額と処分費用見込額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

(グルーピングの方法)

事業用資産及び保養所施設については、拠点単位を基本として資産のグルーピングを行っており、また、賃貸用資産、遊休資産及び処分予定資産については個々の物件単位でグルーピングを行っております。

(連結包括利益計算書関係)

## ※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	813百万円	263百万円
組替調整額	△1百万円	△3百万円
税効果調整前	812百万円	260百万円
税効果額	△248百万円	△81百万円
その他有価証券評価差額金	563百万円	178百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	△49百万円	47百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	71百万円	89百万円
組替調整額	64百万円	51百万円
税効果調整前	135百万円	140百万円
税効果額	△41百万円	△42百万円
退職給付に係る調整額	94百万円	98百万円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	△1百万円	-
その他の包括利益合計	607百万円	323百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

## 1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式(注) 1, 2	17,892,000	17,892,000	-	35,784,000
合計	17,892,000	17,892,000	-	35,784,000
自己株式				
普通株式 (注) 1, 3, 4	401,082	401,082	68,800	733,364
合計	401,082	401,082	68,800	733,364

(注) 1 当社は、平成28年4月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

2 普通株式の発行済株式総数の増加17,892,000株は株式分割によるものであります。

3 普通株式の自己株式の株式数の増加401,082株は株式分割によるものであります。

4 普通株式の自己株式の株式数の減少68,800株はストック・オプションの行使によるものであります。

## 2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプション としての新株予約権	-	-	-	-	-	142
合計		-	-	-	-	-	142

## 3 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	262	15.00	平成28年3月31日	平成28年6月29日
平成28年10月31日 取締役会	普通株式	350	10.00	平成28年9月30日	平成28年12月1日

(注) 当社は、平成28年2月12日開催の取締役会決議に基づき、平成28年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。当該株式分割は平成28年4月1日を効力発生日としておりますので、平成28年3月31日を基準日とする配当につきましては、株式分割前の株式数を基準に実施いたしました。

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	420	12.00	平成29年3月31日	平成29年6月28日

当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

## 1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	35,784,000	-	-	35,784,000
合計	35,784,000	-	-	35,784,000
自己株式				
普通株式 (注)	733,364	-	23,600	709,764
合計	733,364	-	23,600	709,764

(注) 普通株式の自己株式の株式数の減少23,600株はストック・オプションの行使によるものであります。

## 2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数 (株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプション としての新株予約権	-	-	-	-	-	184
合計		-	-	-	-	-	184

## 3 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	420	12.00	平成29年3月31日	平成29年6月28日
平成29年10月31日 取締役会	普通株式	385	11.00	平成29年9月30日	平成29年12月1日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年6月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	420	12.00	平成30年3月31日	平成30年6月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## ※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金	5,404百万円	6,214百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△508百万円	△542百万円
現金及び現金同等物	4,896百万円	5,672百万円

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 報告セグメントの概要

当社グループは、国内各拠点及び海外において、建物設備のメンテナンス・維持管理、設備及び環境診断・評価、ソリューション提案、省エネ・省コスト提案を行うメンテナンスサービスとそれらサービスを提供する現場から派生するリニューアル工事を手がけ、建物設備のライフサイクルに合わせて、メンテナンスサービスとリニューアル工事を一体化した事業活動を展開しております。また、太陽光発電による売電事業を展開しております。

なお、売電事業については重要性が乏しいことから、メンテナンスサービスとリニューアル工事を一体化した事業を単一の報告セグメントとし、記載を省略しております。

## 【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

## 1 製品及びサービスごとの情報

(単位:百万円)

	建物設備メンテナンス	建物設備工事	合計
外部顧客への売上高	30,695	12,448	43,143

(注) 売電事業に係る金額は重要性が乏しいため、「建物設備メンテナンス」の金額に含んでおります。

## 2 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

## 1 製品及びサービスごとの情報

(単位:百万円)

	建物設備メンテナンス	建物設備工事	合計
外部顧客への売上高	30,792	14,675	45,467

(注) 売電事業に係る金額は重要性が乏しいため、「建物設備メンテナンス」の金額に含んでおります。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

**【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】**

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社グループは報告セグメントを一つとしておりますので、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

当社グループは報告セグメントを一つとしておりますので、記載を省略しております。

**【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】**

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社グループは報告セグメントを一つとしておりますので、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

当社グループは報告セグメントを一つとしておりますので、記載を省略しております。

**【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】**

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	429.21円	458.40円
1株当たり当期純利益金額	42.77円	44.54円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	42.10円	43.78円

(注) 1 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額 (百万円)	1,497	1,561
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益金額(百万円)	1,497	1,561
普通株式の期中平均株式数(株)	35,024,960	35,053,769
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額 (百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	551,197	609,447
(うち新株予約権(株))	(551,197)	(609,447)
希薄化効果を有しないため、 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の 算定に含めなかった潜在株式の概要		-

2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	15,300	16,349
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	256	270
(うち新株予約権(百万円))	(142)	(184)
(うち非支配株主持分(百万円))	(113)	(86)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	15,044	16,078
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	35,050,636	35,074,236

(重要な後発事象)

連結子会社の吸収合併

当社は、平成30年2月14日開催の取締役会において、当社の完全子会社である西日本空調管理株式会社及び日本空調四国株式会社を吸収合併することを決議し、同日付でそれぞれ合併契約を締結し、平成30年4月1日付で吸収合併いたしました。

(1) 取引の概要

① 結合当事企業の名称及び事業の内容

結合当事企業の名称 西日本空調管理株式会社、日本空調四国株式会社

事業の内容 総合建物設備メンテナンスサービス業

② 企業結合日

平成30年4月1日

③ 企業結合の法的形式

当社を吸収合併存続会社、西日本空調管理株式会社及び日本空調四国株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併

④ 結合後企業の名称

日本空調サービス株式会社

⑤ その他取引の概要に関する事項

更なる経営の効率化を図ること等を目的としております。

(2) 会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

## 6. 個別財務諸表及び主な注記

## (1) 貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,471	3,029
受取手形	138	220
電子記録債権	349	634
売掛金	5,061	4,775
完成工事未収入金	2,457	2,355
未成工事支出金	230	307
原材料及び貯蔵品	6	7
未収入金	86	118
繰延税金資産	283	324
関係会社短期貸付金	-	70
その他	149	141
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	11,234	11,984
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,773	4,718
減価償却累計額	△2,286	△2,379
建物(純額)	2,487	2,339
機械及び装置	180	180
減価償却累計額	△7	△18
機械及び装置(純額)	172	161
車両運搬具	5	1
減価償却累計額	△4	△1
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品	582	611
減価償却累計額	△463	△492
工具、器具及び備品(純額)	118	119
土地	3,134	3,133
リース資産	2	0
減価償却累計額	△1	△0
リース資産(純額)	0	0
建設仮勘定	0	-
有形固定資産合計	5,914	5,754
無形固定資産		
ソフトウェア	51	375
電話加入権	12	12
ソフトウェア仮勘定	371	-
その他	1	0
無形固定資産合計	435	389
投資その他の資産		
投資有価証券	3,212	3,494
関係会社株式	1,981	1,861
出資金	0	0
関係会社出資金	717	951
従業員に対する長期貸付金	33	29
関係会社長期貸付金	332	111
長期前払費用	12	13
敷金及び保証金	83	83
その他	6	6
貸倒引当金	△198	△1
投資その他の資産合計	6,180	6,551
固定資産合計	12,531	12,694
資産合計	23,765	24,679

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	173	168
電子記録債務	2,363	2,422
買掛金	1,770	1,669
工事未払金	775	966
関係会社短期借入金	1,090	1,130
1年内返済予定の長期借入金	393	299
リース債務	0	0
未払金	449	201
未払費用	1,046	1,246
未払法人税等	281	432
未払消費税等	153	174
前受金	75	84
未成工事受入金	13	26
預り金	67	148
役員賞与引当金	20	25
受注損失引当金	27	10
流動負債合計	8,700	9,007
固定負債		
長期借入金	825	526
リース債務	0	-
繰延税金負債	293	301
退職給付引当金	1,240	1,342
資産除去債務	6	6
その他	39	39
固定負債合計	2,406	2,216
負債合計	11,106	11,223
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,139	1,139
資本剰余金		
資本準備金	362	362
その他資本剰余金	410	410
資本剰余金合計	773	773
利益剰余金		
利益準備金	122	122
その他利益剰余金		
研究開発積立金	200	200
固定資産圧縮積立金	96	95
別途積立金	5,858	5,858
繰越利益剰余金	2,802	3,377
利益剰余金合計	9,079	9,654
自己株式	△105	△101
株主資本合計	10,887	11,465
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,629	1,805
評価・換算差額等合計	1,629	1,805
新株予約権	142	184
純資産合計	12,659	13,455
負債純資産合計	23,765	24,679

## (2) 損益計算書

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高		
サービス売上高	22,462	22,560
完成工事高	6,482	8,053
売上高合計	28,944	30,613
売上原価		
サービス売上原価	18,129	18,016
完成工事原価	5,587	6,908
売上原価合計	23,716	24,925
売上総利益		
差引売上総利益	4,333	4,544
完成工事総利益	895	1,144
売上総利益合計	5,228	5,688
販売費及び一般管理費		
役員報酬	130	175
株式報酬費用	40	45
給料手当及び賞与	2,233	2,457
役員賞与引当金繰入額	20	25
退職給付費用	99	89
減価償却費	99	169
その他	1,118	1,117
販売費及び一般管理費合計	3,740	4,079
営業利益	1,487	1,608
営業外収益		
受取利息	3	5
受取配当金	199	333
仕入割引	1	0
受取ロイヤリティー	35	34
保険配当金	19	11
受取保険金	-	4
受取手数料	15	15
その他	15	20
営業外収益合計	288	425
営業外費用		
支払利息	18	16
資金調達費用	4	0
貸倒引当金繰入額	114	-
その他	0	0
営業外費用合計	136	16
経常利益	1,639	2,017

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
特別利益		
固定資産売却益	2	1
投資有価証券売却益	0	0
抱合せ株式消滅差益	338	114
特別利益合計	340	116
特別損失		
固定資産売却損	15	0
固定資産除却損	2	0
減損損失	99	90
貸倒引当金繰入額	0	-
関係会社債権放棄損	-	82
関係会社出資金評価損	14	-
特別損失合計	132	174
税引前当期純利益	1,847	1,959
法人税、住民税及び事業税	548	679
法人税等調整額	△56	△100
法人税等合計	491	578
当期純利益	1,355	1,381

## (3) 株主資本等変動計算書

前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位: 百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,139	362	409	772
当期変動額				
剰余金の配当				
実効税率変更に伴う 固定資産圧縮積立金の減少				
固定資産圧縮積立金の積立				
特別償却準備金の取崩				
当期純利益				
自己株式の処分			0	0
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)				
当期変動額合計	-	-	0	0
当期末残高	1,139	362	410	773

	株主資本						
	利益剰余金						利益剰余金 合計
	利益準備金	その他利益剰余金					
研究開発 積立金		固定資産 圧縮積立金	特別償却 準備金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	122	200	95	0	5,858	2,059	8,336
当期変動額							
剰余金の配当						△612	△612
実効税率変更に伴う 固定資産圧縮積立金の減少							-
固定資産圧縮積立金の積立			0			△0	-
特別償却準備金の取崩				△0		0	-
当期純利益						1,355	1,355
自己株式の処分							
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)							
当期変動額合計	-	-	0	△0	-	743	742
当期末残高	122	200	96	-	5,858	2,802	9,079

(単位:百万円)

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・ 換算差額等合計		
当期首残高	△115	10,133	1,084	1,084	112	11,331
当期変動額						
剰余金の配当		△612				△612
実効税率変更に伴う 固定資産圧縮積立金の減少		-				-
固定資産圧縮積立金の積立		-				-
特別償却準備金の取崩		-				-
当期純利益		1,355				1,355
自己株式の処分	9	10				10
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			544	544	29	574
当期変動額合計	9	753	544	544	29	1,327
当期末残高	△105	10,887	1,629	1,629	142	12,659

当事業年度(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,139	362	410	773
当期変動額				
剰余金の配当				
実効税率変更に伴う 固定資産圧縮積立金の減少				
固定資産圧縮積立金の積立				
特別償却準備金の取崩				
当期純利益				
自己株式の処分			0	0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				
当期変動額合計	-	-	0	0
当期末残高	1,139	362	410	773

	株主資本						
	利益剰余金						利益剰余金 合計
	利益準備金	その他利益剰余金					
研究開発 積立金		固定資産 圧縮積立金	特別償却 準備金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	122	200	96	-	5,858	2,802	9,079
当期変動額							
剰余金の配当						△806	△806
実効税率変更に伴う 固定資産圧縮積立金の減少			△0			0	-
固定資産圧縮積立金の積立							-
特別償却準備金の取崩							-
当期純利益						1,381	1,381
自己株式の処分							
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	△0	-	-	575	574
当期末残高	122	200	95	-	5,858	3,377	9,654

(単位:百万円)

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・ 換算差額等合計		
当期首残高	△105	10,887	1,629	1,629	142	12,659
当期変動額						
剰余金の配当		△806				△806
実効税率変更に伴う 固定資産圧縮積立金の減少		-				-
固定資産圧縮積立金の積立		-				-
特別償却準備金の取崩		-				-
当期純利益		1,381				1,381
自己株式の処分	3	3				3
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			176	176	41	217
当期変動額合計	3	578	176	176	41	796
当期末残高	△101	11,465	1,805	1,805	184	13,455

(4) 個別財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

連結子会社の吸収合併

当社は、平成30年2月14日開催の取締役会において、当社の完全子会社である西日本空調管理株式会社及び日本空調四国株式会社を吸収合併することを決議し、同日付でそれぞれ合併契約を締結し、平成30年4月1日付で吸収合併いたしました。

(1) 取引の概要

① 結合当事企業の名称及び事業の内容

結合当事企業の名称 西日本空調管理株式会社、日本空調四国株式会社  
事業の内容 総合建物設備メンテナンスサービス業

② 企業結合日

平成30年4月1日

③ 企業結合の法的形式

当社を吸収合併存続会社、西日本空調管理株式会社及び日本空調四国株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併

④ 結合後企業の名称

日本空調サービス株式会社

⑤ その他取引の概要に関する事項

更なる経営の効率化を図ること等を目的としております。

(2) 会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

なお、これにより、翌事業年度において抱合せ株式消滅差益として1億円を特別利益に計上する予定であります。

7. その他

(1) 役員の変動

① 代表取締役の変動

該当事項はありません。

② その他の役員の変動 (平成30年6月22日付予定)

退任予定取締役

取締役 橋本 東海男 (相談役 就任予定)

(2) その他

該当事項はありません。